

人間、地球、平和を尊び

校長 高山 直也

令和4年度が幕を開けました。青山小学校3年目となりました高山です。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

冒頭に掲げた題名は、今年度の青山小学校「学校経営計画」の主文（目指す学校像）です。この後に、『持続可能な社会の造り手となる人材を育てる学校』と続きます。昨年度から、青山小学校は学習活動の中にSDGsを位置づけ、本格的に学びを深めてきました。もちろん中心となる学習は、生活科や総合的な学習の時間でしたが、社会・理科・国語・算数、ひいては芸術教科や体育も含めて、全ての教科は持続可能な社会の創り手を育てる、ことにつながることを意識してきました。このことは「なぜ勉強するの?」「なぜ学校に行くの?」「なぜ働くの?」「なぜ生きているの?」といった、学ぶこと生きることの根源的な問いにも耐える、大きな目標となりました。

昨年度12月の学習発表会をご覧になった保護者の方の感想に、次のようなものがありました。

低学年のため、まずは身近な「食べ物」から話題をふると、学校で学び、聞いてきたことを説明してくれるようになりました。貧困や飢餓、教育、水、健康について、ユニセフの動画を観て親子で学びを深めるきっかけとなっています。大人の私でも知らない事柄もあり、とても勉強になります。

スーパーで買い物をしていたら、賞味期限が早いものを買うことが、SDGsにつながることを教えてくれました。授業で習ったことを実生活に活かしてくれていたことが、とても嬉しく感じられました。

資源を大切にするためごみの分別やリサイクルをしたり、持ち物を安易に破棄せずに直して使おうとしたりする姿勢があります。買い物でも使うタイミングと賞味期限を意識し、「今から使うから3%オフのを買って来たよ。」や「うちにはお菓子があるから今日は買わないでいいね。」などフードロスを考えておつかいをしてきてくれます。

素敵だと思います。家でも話題にさせていただいて、さらに深まります。学んだことが、澄んだ子供の心に沁み込んでいくことを、我々教員も肌で感じた1年でした。しかし学びに終わりがなく、卒業生は教えてくれました。貧困を追求した、自分たちにできることは募金と古着回収だと、卒業の間際まで呼びかけました。しかし彼ら彼女たちは、学習発表会後も、古着が送られた先のアフリカの現状を学んでいたのも、回収した古着を、もらう人の身になって卒業式の直前まで選別していたのです。自己満足でお仕着せの援助ではなく、相手意識をしっかりとって、最後まで本気で活動してくれました。学びに終わりはなく、オープンエンドであることさえも学んで卒業していきました。



冒頭に掲げた「人間・地球・平和を尊び、」の一節は、子供にとって難しく大きすぎる目標でしょうか。毎日画面に出現する凄惨な戦場を見るにつけ、海辺のゴミの山を見るにつけ、今こそ全ての学びを、「人間・地球・平和」を敬い、守り、未来の子孫に向けて考え、行動する人を育てることにつながる時だと考えます。今年度も青小は、子供たちに楽しくも深い学びを提供していきます。家庭・地域と一緒に手を携えて、子供たちと共に私たちも一緒に学んでいきましょう。